

令和5年度の科目概要です。

授業科目名	社会調査法
授業科目名（英字）	Social Research Methods
時間割	前期 木曜日 4校時 第31講義室
対象年次及び学年	1年次
担当教員	緒方 宏海
ナンバリングコード・水準	B1
ナンバリングコード・分野	SCL
ナンバリングコード・ディプロマ・ポリシー(DP)	bce
ナンバリングコード・提供部局	E
ナンバリングコード・対象学生	3
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応	0
ナンバリングコード・授業形態	Lx
ナンバリングコード・単位数	2

関連授業科目	文化人類学
履修推奨科目	文化人類学
学習時間	講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)
授業の概要	私たち人間は「社会」の中で生きており、社会集団に属し社会現象や人間の価値観に関連する問題にも遭遇します。とりわけ今日、グローバル化する現代社とすることも不可欠です。しかしそもそも、「社会」とは何でしょうか。それは、どのようにしてとらえることができるのでしょうか。 本講義では、第一線で活躍する研究者が、社会または社会集団内における社会事象を実証的にとらえる方法を解説しながら、フィールドワークの「現場」か
授業の目的	「社会」を対象とする社会科学の分野では、多種多様な社会調査の方法が開発され、発展してきました。本講義では社会調査がますます重要視される中で上での倫理・心構えなど、社会調査に関する基礎的事項を講義します。また社会の中の人間・文化を分析するために、不可欠な基本的知識として分類が: 学生が、社会調査の歴史とその研究蓄積・方法を学ぶことで、自ら社会調査を企画・設計できるように、基本的な知識と「社会」をとらえ、日本と世界を見渡
到達目標	1. 社会調査の基本的考え方、および社会科学の各分野の基本概念を簡潔に説明できる。 2. 社会調査のプロセスを具体的に述べることができ、実際に基礎的な調査を実施することができる。 3. 調査倫理の問題を踏まえつつ、社会調査の意義について理解し説明することができる。 4. 幅広い観点から社会現象や物事を考えられること、客観的に観察可能な行動ができる。  ※共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル（幅広いコミュニケーション能力）」に対応。
成績評価の方法	リアクション・ペーパー、学期末の筆記試験をもとに成績を総合評価する。（リアクション・ペーパー10%、期末テスト50%等）。
成績評価の基準	成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点未満） 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満） 到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満） 到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満） 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満） 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。
	※この講義は基本的に対面で実施します。  第1週 イントロダクション—社会調査の前提となる、「社会」とはそもそも何か？ 第2週 社会調査とは何か？ 第3週 研究と社会調査—社会調査の源流：人口調査、貧困調査、国勢調査 第4週 社会調査の対象と方法 第5週 社会の中の人間・文化の見方—基本的分類カテゴリーとしての人種・民族・文化 第6週 質的調査(1) 質的調査の種類と考え方—ソクパル社会学と民族誌の系譜文化人類学 第7週 質的調査(2) インタビュー調査

<p>授業計画並びに授業及び学習の方法</p>	<p>第8週 質的調査(3) フィールドワークの方法  第9週 質的調査の方法と実例―風水とはなにか? 風水師に「風水宝地」を聞き出す方法  第10週 量的調査法と実例―香川県の漁師と青森県大間マグロー一本釣り漁師の信仰  第11週 日本の農山漁村における社会調査  第12週 観光振興・地域活性化に関わる調査①(地域活性化編)  第13週 観光振興・地域活性化に関わる調査②(観光振興編)  第14週 社会調査と現代社会 ―個人情報保護と調査倫理―  第15週 まとめ</p> <p>【自学自習のアドバイス】  授業中に指示する参考資料などに目をとしたり、関連する事象について新聞・インターネットで調べるなどして、考えを深化させること。</p>
<p>教科書・参考書等</p>	<p>【教科書】  特になし。適宜資料を配布します。</p> <p>【参考書】  佐藤郁哉『社会調査の考え方(上)(下)』東京大学出版会、2015年、3200円+税。  長友敦編『グローバル化時代の文化・社会を学ぶ―文化人類学/社会学の新しい基礎教養』世界思想社、2017年、1900円+税。  日本文化人類学会(監修)『フィールドワークハンドブック』世界思想社、2011年、2400円+税。その他、授業中に紹介します。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>水曜日15時から17時 南キャンパス2号館3階緒方宏海研究室</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p>	<p>※身近な社会現象を社会調査の目でみる姿勢を心がけること。  ※進行状況に応じて内容を調整することがあります。  ※授業中にリアクション・ペーパーの執筆や小テスト(確認テスト)を課す回がある。  ※授業で紹介する参考文献をもとに自主的に研究するよう努めてください。</p>
<p>参照ホームページ</p>	
<p>メールアドレス</p>	
<p>教員の実務経験との関連</p>	